6 月 26 日のメッセージ

聖書：使徒言行録　16：　16－24

「イエス・キリストの名によって」

弟子たちは聖霊に満たされ、安心の中で神の恵みを語り伝えました。しかし、人々の不信は消えません。それでもなお、弟子たちはさらに大胆に福音を語り、奇跡を起こし続けました。結果、教会はさらに勢いを増していきました(「こうして、教会は信仰を強められ、日ごとに人数が増えていった。」使徒言行録 16:5)が、同時に敵も増えていったのでした。

人々が怪しんだ最大の要因は、弟子たちを満たす霊が本当に神からのものかどうかということでした。イエスも「悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」(マルコによる福音書 3:22)と非難されましたが、弟子たちも同様に常に悪霊と、そして悪霊にとりつかれていると非難する声と戦い続けたのです。

悪霊は人々に悪い影響を与えるものです。

例えば、最初に王として立てられたサウルは、後に悪霊に悩まされるようになります(「……主から来る悪霊が彼をさいなむようになった。」サムエル記上 16:14)。夜も眠れず、悪い方へ、悪い方へと物事を考えるようになっていきます。その結果、サウルは人々の信頼を失うことになりました。

また、ゲラサ人の地方でイエス一行が出会ったのは、「汚れた霊に取りつかれた人」(マルコによる福音書 5:2)でした。悪霊は、その取り憑かれた人に、「昼も夜も墓場や山で叫んだり、石で自分を打ちたたいたり」(マルコによる福音書 5:5)させることもありました。当然、周囲の人々はその様子に恐れを抱き、彼に近づく者もありませんでした。

悪霊に悩まされるサウルを慰めたのはダビデの竪琴の音色でした(「……ダビデが傍らで竪琴を奏でると、サウルは心が安まって気分が良くなり、悪霊は彼を離れた。」サムエル記上 16:23)。しかし、瞬間的に気分が良くなり、安心することはできましたが、根本的な解決には至りません。

一方、イエスは悪霊に取り憑かれた人と対峙して悪霊自身がその人から出て行くようにされます(「イエスがお許しになったので、汚れた霊どもは出て、豚の中に入った。……」マルコによる福音書 5:13)。そして、根本的な問題を解決して彼を癒されたのでした(「……レギオンに取りつかれていた人が服を着、正気になって座っている……」マルコによる福音書 5:15)。

今、パウロとシラスの前には、占いの霊に取り憑かれている女がいます。

「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。」(使徒言行録 16:18)

イエスの名によって願うならば、神は必ず実現してくださるとの確信の下で霊に語りかけます(「……あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。」ヨハネによる福音書 16:23)。また、そのことによって利益を得ている者たちの機嫌を損ねることにも気づいていながら、二人は彼女の真の救いのために、霊と対峙するのです。

言うまでも無く、自己顕示欲を満たすためではありません。また、売名行為でもありません。自分自身が神の前に背き、自分中心に生きてきたことを赦されたという喜びが、弟子たちを支えています(「いかに幸いなことでしょう／背きを赦され、罪を覆っていただいた者は。」詩編 32:1)。そして、一人でも多くの者が真の安心、真の救いへと導かれるように願っているのです。

今、私たちの周囲にも悩み苦しむ人、自分自身ではどうすることもできなくなっている人が多くおられます。弟子たちのように奇跡を起こす力は、私たちにはないかもしれません。しかし、それでも、その一人ひとりのために、イエス・キリストの名によって、真の平安を、真の平和を願う者でありたいと願うのです。その祈りが必ず聞き届けられると信じて、今日も祈る者でありたいのです。